

取組の概要

本取組では、看護における問題解決能力を育成するための看護実践事例学習用eラーニング教材を開発します。さらに、学内教育および臨地実習において、看護学生が、いつでも、どこでも、簡単に、eラーニングで自己学習しやすいユビキタス・オン・デマンド学習支援環境を構築します。これらにより、4年間の学内外での学習機会を通じて、看護問題解決能力を主体的かつ効果的に獲得できるよう支援し、高度な看護実践能力を備えた人材を育成します。特に、学生が課題に直面した時には、学習履歴が記録できる機能を備えたUSBメモリをパソコンに装着することで、簡単に、看護教材サーバから事例教材をダウンロードできます。さらに、臨地実習や試験前に必要な副教材をダウンロードして、自作のデジタル看護辞典を作成することができますようにします。この看護辞典を作成する過程で、学生たちは、自学自習し、既習知識の整理や統合ができると考えます。また、自己学習中の学習支援として、携帯電話のメール機能を活用して教員に指導を仰げるような双方向学習支援環境を整備します。

現代GPとは

各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学等から応募された取組の中から、特に優れた教育プロジェクト（取組）を選定し、財政支援を行うことで、高等教育の活性化が促進されることを目的とするものです。

We
Can Go
!!



平成17年度 文部科学省 現代GP 採択プログラム

ニーズに基づく人材育成を目指した e-Learning Program の開発



Center for Research and Development
on e-Learning
for Education in Nursing

お問い合わせ

連絡先：CanGo Project 看護教材開発研究センター
(通称：eラーニングセンター)
住 所：大阪府立大学 看護学部内 K511室
〒583-8555 大阪府羽曳野市はびきの3-7-30
TEL：0729-50-2111 内線2730
FAX：0729-50-2121
Mail：cango@nursing.osakafu-u.ac.jp
URL：http://www.cango.jp



テーマ

看護実践能力の獲得を支援する e-Learning

臨地実習用ユビキタス・オン・デマンド学習支援環境の構築



INDEX

- 取組の概要
- 現代GPとは
- 背景
- 目的・目標
- 看護実践事例教材
- ユビキタス・オン・デマンド学習支援環境
- プロジェクト実施体制
- 社会的貢献



CanGo プロジェクト KICKOFF ミーティング



こんなに集まった事例原稿!!

背景

医療の高度化、患者様のニーズの多様化に伴い、看護教育機関に対し、看護実践能力（患者の状況を的確に把握・分析し、適切な看護を実践できる能力）を備えた看護職の人材育成が求められています。この社会的ニーズに対応するために教育内容や教授方法の一層の質的な改善を図り、学生が効果的に学習できる新しい環境を提供していく必要があります。病院などで行う臨地実習は、実際の患者様に接することができ、看護実践能力を養うために非常に有効な学習機会です。この場で看護学生は非常に多くのことを学びます。そのため、看護教育では必須のカリキュラムとなっています。しかし、実習施設はいろいろな場所に点在していますし、大学と同等の学習環境（図書館やインターネット、情報機器）が必ずしも整備されているわけではありません。そこで、この臨地実習をeラーニングという方法を使って補うことによって、学習環境を整えらるとともに、さらに学習の質を高められるのではないかと考え、本取組を提案しました。

目的・目標

本取組では、看護実践能力を備えた人材を育成するために、(1)すでに学んだ看護専門知識の整理・統合と(2)看護技術の習得、および(3)看護問題解決能力の向上、を目的として、看護実践事例学習用eラーニング教材を開発し、看護学生が利用しやすい環境を整備します。このeラーニングは、看護教育のカリキュラムの中で実施している講義・学内実習・臨地実習の学習上の問題を解決するために、それぞれの学習形態の間を補完し、学内外での学習活動の効率化と利便性の向上を図り、学生の主体的な学習態度を育成することを目的としています。

【目標】

- 1) 看護実践事例教材の開発と100個のデータベースの構築
- 2) 看護学生が利用しやすいユビキタス・オン・デマンドな学習支援環境の構築

看護実践事例教材

eラーニング用の教材は、看護実践の場面を事例としてとりあげています。既に開発しているプロトタイプ（※1）では、対象者や看護場面をイメージしやすいように、音声や画像などのマルチメディアを活用しています。また、事例の分析ポイントを段階的に提示し、学習者の思考過程を整理できるようにし、関連する知識、看護技術、演習問題なども学習できます。さらに、これらのデジタル副教材は、再構成し、二次利用することにより、新しい教材の作成や追加も容易にします。

（※2）文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（B）（2）15390666 「看護職における問題解決型思考育成のためのE-learningに関する研究」（研究代表者 真嶋由貴恵）

ユビキタス・オン・デマンド学習支援環境

臨地実習中や自己学習において、インターネットや情報通信機器を利用した看護学生の学習を支援します。ユビキタス・オン・デマンド学習支援環境の構築は、インターネットでの利用はもちろんですが、インターネットが整備されていない、あるいは病院などの制限された実習環境でも、学生自身が作成した「デジタル看護辞典」で容易に学習できる点がユニークです。学生は、自分用の「デジタル看護辞典」を作成することにより、既習知識の整理、情報活用能力と共に主体的な学習姿勢が培われていくと考えられます。

プロジェクト実施体制

学内の組織化を行ない、併せて教材開発を効率的に進めるため、民間企業のサポートを得ながら、プロジェクトを推進していきます。本取組での教材開発体制や手法、及びプログラム評価における知見は、今後の大学でのeラーニングコース開発において参考になるものと思われます。

社会的貢献

本取組を展開することによって、

- 高度な看護実践能力を持った看護職の創出を可能にし、看護の質向上に寄与する
- 看護問題解決能力育成用eラーニング教材の充実により、学内だけでなく、社会でもその教材を活用できる
- 教育方法の開発により、看護教育分野でのeラーニングモデルの構築を可能にする
- 看護職の情報活用能力と教員の教育実践能力の向上を図ることに寄与できると考えています。



※2 LMS = Learning Management System



スキル映像撮影風景



eラーニングセンターもロケ現場に!



ナレーション収録



事例制作者と声優のお二人

2005年度制作風景